

平成30年度宮古地区労働衛生大会が開催されました

平成30年度の宮古地区労働衛生大会（主催：沖縄県労働基準協会宮古支部など4団体）が平成30年9月5日に、宮古島市中央公民館1階大ホールで開催されました。

同大会は、労働者の健康管理や職場環境の改善などの自主的な労働衛生活動により、労働者の健康を確保することを目的とした全国労働衛生週間（10月1日から10月7日）の準備期間中に開催されたもので、企業の代表者や衛生担当者等116人が参加しました。

大会では最初に、職業性疾病で亡くなった労働者の冥福を祈り、1分間の黙とうをささげました。

主催者代表挨拶では、労働基準協会宮古支部の上里明通支部長から、「今回のスローガンは今の状況を言い当てている。また、人手不足が深刻な状況になっている。官民一体となった取り組みで健康管理を実施していこう」と呼びかけがありました。

本大会の特別講演では、下地診療所の打出啓二院長が「『**知っていますか？受動喫煙**』～**吸わない人の健康被害**～」をテーマに、「受動喫煙については正しい知識を基に議論をすべき」と、喫煙の危険性をデータに基づき解説されました。講演では、受動喫煙による死者数が少なくとも年間6800人いることが示され、自身のみならず家族や身近な人の健康を守るためにも喫煙は控えた方が良くとお話しされ、参加者は熱心に聞き入っていました。

大会終盤では、「『**健康長寿沖縄**』の復活の鍵は働き盛り世代の健康改善にあるため、**心と体の健康確保に邁進していく**」とする大会宣言を採択し、参加者全員で「指差呼称」を行い、今後のさらなる労働衛生活動実施の決意を新たにしました。



地域産業保健センターによる健康相談



宮古保健所による健康関連情報の掲示